

# 野尻町立紙屋中学校の学力向上への取組

## 1 平成17年度の本県の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

### (1) 学力調査結果からの課題

- ① 英語の平均到達度アップ
- ② 英語の「表現」、「言語文化理解」の指導強化
- ③ 社会の「基礎」の指導強化

### (2) 意識調査結果からの課題

- ① 「学びの基礎力」に関して、「学びに向かう力」の中の「自己責任」の数値の低さ
- ② 「学びの基礎力」に関して、「自ら学ぶ力」の中の「学習定着のための方略」、「学習計画力」の数値の低さ
- ③ 「学びの基礎力」に関して、「学びを律する力」の中の「学習継続力」、「学習環境の整備」の数値の低さ
- ④ 「生きる力」の中の「社会的実践力」、「自己成長力」の数値の低さ

## 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

### (1) 学力向上に向けた経営方針

個に応じた学習指導法の工夫改善による基礎学力の向上(確かな学力の向上を目指して)

- ① わかる授業の実践に努める。
- ② 教授型指導から問題解決的な学習指導への脱皮を図る。
- ③ 学習意欲を喚起する指導方法の工夫改善に努める。
- ④ 基礎的・基本的内容の指導の徹底に努める。
- ⑤ 教育機器の効果的な活用に努める。
- ⑥ 個に応じた指導を実践し、生徒個々の学力の確実な定着と向上を図る。

### (2) 教育課程内の取組

#### ① 積極的な生徒指導の推進

「生徒指導は学力向上の基盤」という観点から、生徒指導に関する研修を行っている。特に、「ブローケンウィンドウズ理論」を原点に置き、小さなことの積み重ね(あいさつ、容儀、整理整頓、言葉づかい等)を大切にすることを全職員で共通理解するとともに、個を大切に積極的な生徒指導を推進している。

#### ② 学力分析

各種の学力診断テストの結果を分析し、課題を整理し、教科・学年としての取組を共通理解・実践している。また、小規模校の特性を生かし、生徒個々について日頃の学習の状況を情報交換し、全職員で指導に当たっている。

#### ③ 研究授業・授業研究会の実践

主題研究の取組のひとつとして、一人年1回の研究授業の機会をもっている。本年度の指導案の型を作成し、問題解決的な授業を推進している。参観の視点に基づいて授業を参観し、授業研究会では活発な質疑が行われ、充実した会となっている。各教科の基礎・基本の定着と「伝え合う力の育成」のための取組について、教科を超えて学び合うことができている。



#### ④ 各教科での小テストの実施

基礎・基本の定着のために、授業の中で小テストの機会を多くもっている。定着の十分だった生徒については、昼休みや放課後等を使って、個人指導と再テストを実施している。

### (3) 教育課程外の取組

#### ① 家庭学習の方法についての指導

教科別に家庭学習の方法についてまとめた冊子を作り、宅習の見本を付けて「家庭学習の手引き」を作成している。冊子を使って全校一斉に指導をし、「家庭学習記録カード」の記入についても併せて指導を行った。学習委員会の活動と絡めて宅習時間調査も実施し、集会で表彰を行った。また、調査結果について一覧表を作成し、協議したことで、学年や個人の傾向を把握でき、その後の指導に役立てることができた。その結果、生徒の意識も高まり、質・量共に改善されてきた。

#### ② 宅習の充実

宅習量を充実させ、基礎・基本の定着を目指して、毎日宅習2ページ、漢宅（漢字の宅習）1ページ、英宅（英語の宅習）1ページを課している。臨時に、社会や数学の宅習が加わる時もある。内容については、研究班や学級活動、学年の取組等を通して改善されてきている。

#### ③ 校内漢字検定・英単語コンクールの実施

1・2学年は、朝自習の時間で、3学年は国語科・英語科の授業の中で実施している。学年に応じた級を作り、再テストも実施している。級の設定と併せて表彰をすることで、生徒の意欲も高まってきている。

#### ④ 学習に関する教育相談

1学期に学習に関する教育相談を実施している。事前にアンケートをとり、生徒のアンケート結果一覧表を作り、一人一人の生徒が抱えている問題の分析や適切なアドバイスの在り方を検討しながら実施している。生徒の学習のつまずきや悩みが明確になり、個に応じた指導をすることができた。

#### ⑤ サマースクールの実施

夏季休業中の前期、後期の計8日間の午前中にサマースクールを実施した。時間割を組み、教科外の職員もつき、全職員が協力し、個に応じた指導を行った。生徒は希望者としたが、結果的に全生徒が受講した。上学年ほど、意識の高い取組が見られた。

### (4) 保護者・家庭・地域との連携

#### ① 研究便りの発行

子どもの学習に対しての保護者の興味・関心を高めてもらうことをねらいに「保護者の皆様へ」という研究便りを発行した。効率的な学習や進路指導の情報等を載せ、また、学習記録カードのチェック等の協力依頼も行った。コメントを添えて返してくれる保護者も少しずつ増え、意識の高まりを感じた。

#### ② 様々な機会での家庭への啓発

保護者に対して、年度当初に学校長が学校経営方針を説明し、学級懇談会・PTA合同委員会（全保護者参加）等で学習に対する生徒の実態報告と協力を依頼した。また、学校評価を実施し、説明を加えながら公表したことで、保護者の理解と協力が深まってきた。

#### ③ 学校評議員会・地区座談会での説明・意見交換

学習・生活に関する取組を説明し、意見交換の機会をもった。学校の教育活動について理解してもらうことができ、地域で子どもを育てる意識が高まってきた。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ① 一人1回の研究授業と校内研修の積み重ねによって、教師の指導力が向上してきた。
- ② 保護者に対して、いろいろな機会を捉え、学習に関する現状と本校の取組、諸テスト等の結果等の情報を伝えたことで、保護者の学力に対する意識が高まった。
- ③ 各種検定受検者が増え、よい結果を出すとともに、学習への意欲が向上した。

### (2) 課題

- ① 生徒指導の充実を基盤とした授業力の向上を目指す学習指導方法の研究に、全職員で継続して取り組んでいきたい。
- ② 校内漢字検定・英単語コンクールの上級取得を目指し、宅習・朝自習等の手立てを工夫していきたい。